

# A O 入学試験

〈出典一覧〉

心 理	厚生労働省	平成 26 年版 厚生労働白書 p.99 を一部改変	
ビジネス	総務省	令和 3 年版 情報通信白書 P156-157 (図番号を変更)	
会 フ	松尾睦	『経験からの学習』 p.125	
	日本経済新聞社電子版 2021 年 4 月 1 日	Nikkei View 70 歳就業、道は険しく 生産性向上迫られる高齢者	
日 文	中野孝次	『自分らしく生きる』	講談社現代新書
歴 文	森安孝夫	『シルクロード世界史』	講談社選書メチエ
初 教	国立青少年教育振興機構	青少年の体験活動等に関する意識調査 (令和元年度調査)	
健 康	厚生労働省	平成 30 年国民健康・栄養調査結果	
安 全	厚生労働省	アニサキスによる食中毒を予防しましょう	
	厚生労働省	<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000042953.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000042953.html</a>	
会 フ	日本経済新聞 2021 年 8 月 26 日	食中毒統計 食中毒発生状況 (2016年～2020年) より引用改変 「ESG を投資理論から見ると」 (大機小機)	

1

人間文化学部 日本語日本文学科 小論文(800字) 60分

問題 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

著作権上の理由から削除

2

人間文化学部 日本語日本文学科 小論文(800字) 60分

中野孝次『自分らしく生きる』講談社現代新書一四六一五二頁(一九八三年九月)

\*文中の見出しは省略

注  
※例のあぶらぼろ……「あぶらぼろ」は機械類の掃除で油污れなどをふき取るのに使うぼろきれ。ノボル少年がいつも使っていたため「例のあぶらぼろ」と表現されている。

問 次の(一)(二)について、あわせて八〇〇字程度で述べなさい。

- (一)傍線部「どっちの子供が幸福か」という問に対し、筆者はどのように考えていますか。本文中の言葉を用いて、理由とともに述べなさい。
- (二)あなたはどっちの子供が幸福だと思いますか。あなたの意見を述べなさい。

次の文章は、森安孝夫『シルクロード世界史』(講談社選書メチエ 二〇二〇年)の一節である。本文を三〇〇字程度で要約しなさい。そして、本文をふまえた上で、素人ではないプロの歴史学者の使命について具体例を挙げながら自分自身の考えを五〇〇字程度で論じなさい。なお、全体の解答は八〇〇字以内にする。

歴史学というのは文科系の学問であって、そこには色々な解釈の入り込む余地がある。極端に言えば素人が出した思い付き的な仮説でも、即座には論破されないという事態がしばしば生じる。しかし、だからと言って、歴史学に論理的方法論・思考法はないのかというと、決してそうではなく、むしろ歴史学は文科系の学問の中でもっとも論理的な側面を持っているのである。

私はこれまで、日々生産されている歴史関係著作を理科系的歴史学・文科系的歴史学・歴史小説(コミックを含む)に三大別してきた。「知の地平」を拡大せよという意味では三者に優劣はないが、区別は歴然としてある。

いつの時代でも「新しい歴史学」としてはやされるのは、大抵この中の文科系的歴史学の範囲に入る。マルクスの提唱した唯物史観もその一つであった。素晴らしいアイデア・着想ではあったが、それだけに推測も多く、いつかは具体的事実によって予見を覆される危険をはらんでおり、二〇世紀末にそれは現実となった。

理科系的歴史学というのは、史資料(文献史料と考古・美術資料などを合わせていう)に基づいて緻密に論理展開され、他人の検証に十分堪えうる、つまり理科系でいう「追実験」を可能にする学術的論者を指す。

ある一つの歴史現象あるいは言語現象を説明するために、まずそれに関係する史資料を細大漏らさず收拾・蒐集する。次いで文献史料であればいかなる言語であれ読解するが、一語一語の解釈にさえ裏付けを取って(つまり同時代人の目線で)正しく解釈し、考古遺物・美術資料ならばいろいろな角度からそれを徹底的に分析する。この段階で、独善的にならず、万人の認め得る解釈をすることが肝要である。そのようにして明らかになった事実を、先行研究の完全なる追体験をして(先行研究をもれなく、細い)すでに明らかになっている事実と組み合わせ、真実を究明していくのである。そこには安易な妥協や類推は見られず、大胆な推測も見られない。だから面白くないかと言えば、さにあらず、それこそ「事実は小説より奇なり」である。

とはいえ文献史料も考古・美術資料もほとんどが偶然に残されたもので、そこから理科系的歴史学で解き明かされる真実は点や線にすぎない。それを面にまで拡大するには、つまり歴史というストーリーを組み立てるには、どうしても空白を埋めるための「推論」をせざるをえない。その推論に学問的良心を堅持するのが文科系的歴史学であり、責任をもたないのが歴史小説である。

とはいえ私は一概に歴史小説を否定しているのではない。時代の雰囲気や正しく伝えるという基本原則さえ逸脱していなければ、そこに多少の空想や誇張があっても、過去を時間軸にそって整理し、その過去との関係性のなかで自らの存在を確認して、我々の歴史意識の醸成に裨益するものとなる。(省略) ……

歴史はヒストリー(History)であり、本来「語り」(Story)の性格が色濃いものであるが、日本語としては「語り」は「騙り」に通じるというのがなんとも面白いではないか。歴史ファンも単純に歴史小説に騙されてはいけない。

史料批判と実証に基づき「事実の発見」を主とする理科系的歴史学は、あくまで文科系的歴史学や良心的な歴史小説の骨組みを作る材料であって、最終目標ではない。一方、感性や感情に訴えることもある文科系的歴史学と歴史小説は、時に政治的プロパガンダに利用される危険があることに留意されたい。